

共感・共生・共助の社会へ舵を切る



全日本社会貢献団体機構 会長

西田 力

敗戦の荒廃から立ち上がった日本社会は、戦後、民主主義の旗印のもと、さまざまな分野で発展を続けてきました。とりわけ、経済分野の伸長には著しいものがあり、国際市場における重要なプレーヤーとしての地位を確立しました。しかし、時代は大きく変わりつつあります。これまで日本社会の基盤となってきた政治・経済の枠組みや産業構造、人口構成などが大きな変化にさらされる、変革の時代に突入したと言えます。もはや、経済一辺倒では立ち行かない状況にあります。これまで私たちの生活を支えてきた価値観や倫理観といったものが、音を立てて変わりつつあると感じているのは、私一人ではないと思います。

しかし、下を向いてばかりはいられません。よりよい未来へ向けて、歩みを止めるわけにはいかないのです。いまこそ、一人でも多くの方が幸福を実感できる社会の実現を目指し、新しい価値観や倫理観を立ち上げるときなのではないでしょうか。その手引きのひとつとなるのが、みなさんが日ごろ取り組んでいる社会貢献活動やボランティア活動です。少子高齢化がますます本格化するとともに、人口減少社会に突入した日本において、これから先、高度経済成長期のような大きな経済成長を望むことは現実的に困難です。それを期待している限り、いまある格差は拡がりこそすれ、縮まることはないでしょう。人の温もりが感じられる社会にするには、成長よりも成熟に向けて思い切って舵を切らなくてはなりません。その時に、一人ひとりが自分にできる範囲で他者や社会へ手を差し伸べる心構えを身につけることが重要です。

この『社会貢献活動年間報告書』には、みなさんが志を込めて拠出した助成金が、どのような現場で、どのように役立てられているのか、紹介されています。みなさんご自身の目で、ぜひ、ご確認いただきたいと思います。毎年のことですが、私にとっても、その作業は心躍るひとときです。そこから感じ取れるのは、人と人の温かい心のふれあいであり、それによってしか人は本当に幸福になることができなという厳然たる事実です。また、東日本大震災から3年が経過しました。しかし、復興はまだ端緒についたに過ぎません。東京電力福島第一発電所の事故により、いまだ避難を余儀なくされている方々や、支援の手からこぼれてしまった人々や暮らしがあります。当機構は、これからも東北の被災地関連の復興への支援を継続していきます。いまこそ勇気を持って、共感・共生・共助の精神を発揮していきましょう。

業界の変革へ向けて社会的責任を果たす



全日本社会貢献団体機構 理事長

阿部 恭久

昨年は政府の大胆な金融政策により、各種の景気指数が上向いてきましたが、实体经济としては未だ横ばいという現状を多くの方が感じているところであり、今年こそは景気の向上を実感したいと思っていることでしょう。その思いは、私たちの業界においても同じですが、私は近年の業界の低迷を景気の悪さだけにおしつけることには無理があると思っています。私たちが、社会のニーズ、ファンの声に対応しきれていなかったことも、業界低迷の大きな要因ではないでしょうか。時流の変化が早い現在、旧態依然の考え方では社会に取り残されてしまうと強く感じています。

社会に受け入れられ、そして必要とされる業界に成長し、認知されるための手立てのひとつとなるのが、業界を挙げての社会貢献活動やボランティア活動の更なる推進だと思います。社会が豊かな成熟社会になった今日、いまや規模の大小を問わず、あらゆる業界に、地域社会の一員として応分の社会的責任を果たしていくことが求められており、それができなければ、業界として生き残っていくことが難しい状況にあります。そのような中、私たちの業界は、CSR(Corporate Social Responsibility = 企業の社会的責任)という言葉が、まだ一般的でなかった時代から、主に青少年の健全育成や、交通安全、犯罪防止活動を通じての安心安全な街づくり運動などの分野で地道にその責任を果たす活動に取り組んできました。しかし、その多くは一般に報道されることもなく、一部の関係者が知るのみでした。こういうことも私たちの業界の社会的評価が上がらない一因であったと思います。これからは、そうした活動を広く一般社会に知っていただくことで、一層の拡がりや深まりを達成していきたいと考えています。その一環として、今年もまた、この年間報告書を作成しました。

2013年度には、全国から211件の助成申請があり、うち25団体に助成させていただきました。子どもの健全育成支援、命を大切にする研究・事業、学術・文化の振興といった当機構発足以来の助成分野に加え、昨年度に引き続き、特別助成として、東日本大震災からの復興を目指す事業やコミュニティ強化支援事業への助成を行いました。それぞれの助成事業の概略については、この報告書にまとめてあります。ぜひ、ご一読願いたいと思います。また、社会貢献活動やボランティア活動を実践している仲間に対する顕彰事業の内容を拝見するにつけ、さまざまな取り組みが各地でなされていることに、改めて頭が下がる思いです。これからも、ぜひ継続していただきたいと思います。一人ひとりの行動の日々の積み重ねこそが、私たちの業界の明日を照らす灯りとなることは間違いありません。